

研究開発課題

第2期【平成30年度～平成34年度】

**「論理的思考で主体的に探究できるサイエンスエキスパートと
科学的素養を備えたサイエンスサポーターの育成」**

第1期【平成25年度～平成29年度】

「未来を拓く科学的知見を創造し、世界のさきがけとなる人材の育成」

研究開発の目的・目標

目的

第1期では「さきがけプロジェクト」として「基盤教育」「専門教育」「グローバルリーダー教育」の3つの教育活動を展開し、「未来を拓く科学的知見を創造し、世界のさきがけとなる人材」の育成に取り組んできた。

第2期では「さきがけプロジェクトII」として「専門教育」と「グローバルリーダー教育」の取組を発展させ、国際的に活躍できる科学系人材（サイエンスエキスパート）の育成を目指す。また、基盤教育の取組に加え、文系・理系の区別なく設定した課題を主体的に探究するなどの専門教育の要素を取り入れ、将来的に科学の発展を多面的に支える人材（サイエンスサポーター）の育成を目指す。

目標

- ①自然界及び人間の活動によって引き起こされる自然界の変化について理解し、自分で意思決定し行動するために、「科学的な知識を基に課題を明確にし、根拠に基づいて結論を導く力」（以下「科学的素養」という）を育成することを目標とする。
- ②現在、日常生活や社会の基盤となる科学技術の高度化・複雑化に伴って、科学技術を支える人材の育成が一層重要となっている。将来、科学技術の成果やイノベーションを生み出していくために、「科学的素養を基盤として身に付けた幅広い教養や基礎的な実験技能に加え、それぞれが設定した課題を、論理的思考で多面的・多角的な視点から解決する能力」（以下「確かな専門性」という）を育成することを目標とする。
- ③科学技術に国境はなく、特に理工系においては「国際的な視野、異文化理解、語学力（英語力）、及びコミュニケーション力を備えた資質」（以下「国際性」という）が必要とされている。国際的に活躍できる科学系人材が持つべき資質である国際性を育成することを目標とする。